

地熱発電の有効活用検討会 6次産業研究会の要請にて見学会

発足当初から「循環式陸上養殖」の研究開発を行ってきたJIFASは、今般実施されている、バナメイ（白エビ）プロジェクトの終了をもって、シャッター通りの再開発はじ、本格的が事業展開に入ります。ご案内の通り、このシステムは24時間プラントの稼働を停止することができません。

従って、エネルギーコストが生産物コストに大きく影響致します。このたび、函館に誕生した6次産業研究会殿から情報を頂き、関係者が現地を訪問し、その検討に入った次第です。

訪問場所は、北海道茅部郡森町濁川です。

隣接地に、1982年に建設された、北海道電力株式会社 森地熱発電所（認可出力 50MW）があり、事業者は北海道電力です。6次産業研究会のメンバーは、3000坪を所有しており、その有効活用を目的としています。



候補地を見学し、議論するプロジェクト関係者

この候補地有効活用する本検討会は、今後興味ある関係者の協力を得て本格的検討に入ることを申し合わせました。利用水は優良な地下水を使い、目的に応じて建設された現場まで、熱源を供給してくれます。したがって、熱と水が無償で使用できることは、生産物のコストダウンに大きなメリットがあります。安心・安全な生産物を安定した「価格」「品質」「量」を市場に供給できます。